



発行日：平成 25 年 7 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 10 回海部会 WG を開催しました！

7 月 20 日に第 10 回海部会 WG を開催し、佐久島白浜海岸での
ごみ・流木調査プレ調査を実施しました。

プレ調査では、ごみ・流木調査本調査に向けて、調査票や調査方法
の確認を行い、その後、改善事項について、話し合いました。



日時：H25 年 7 月 20 日(土) 10:30~14:30

場所：佐久島白浜海岸／佐久島クラインガルテン管理棟

参加者：13 名（事務局含む）

◆主な活動・会議内容

1：佐久島白浜海岸にて、ごみ・流木調査プレ調査を行いました



佐久島白浜海岸にて、ごみ・流木調査プレ調査を行いました。流木、人由来ごみ、生物影響ごみの 3 種類の調査について、メンバーで話し合いながら実施しました。



調査前の砂浜



10m 四方範囲を調査します



人由来のごみを集めます



生物由来ごみも調べました



調査後に清掃も行いました

※調査結果は裏面に記載しています。

2：佐久島クラインガルテンにて、ふりかえりを行いました



プレ調査後、調査票や調査方法についてのふりかえりを行いました。本調査に向けて、調査票や調査方法の改善点に関する意見が話し合われました。また、佐久島観光協会会長さんにお越しいただき、佐久島のごみの現状についてのお話をうかがいました。

【主な内容】

- 灌木・流木の区別はつかないので、「山から発生した流木」、「川から発生した流木」、「川から発生した流木のうちヨシ」の3つに分類した方がいい。
- シート上では風に飛ばされるので、バケツ容器などに分別しながら行った方がいい。
- 生物影響ごみについては、細かい個数のカウントまでは不要ではないか。人由来ごみの調査とまとめて一緒に行ってはどうか。

※話し合い中のご意見は裏面に記載しています。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107 / FAX 0532(48)8100

* 矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



◆ プレ調査結果

- 10m 四方内の流木の割合は、山発生のもの 3%、川発生のもの 3%、川発生のもの 94%であった。
- 10m 四方内の人由来ごみは、20L ごみ袋 3 袋分で、内訳は以下ようになった。

	No.1	No.2	No.3
写真			
人由来ごみ (種類を調査)	<p>【生活系ごみ】 飲料用プラボトル、食品の包装・容器、キャップ、袋類、飲料缶、飲料ガラス瓶、ライター 等</p> <p>【漁業系ごみ】 漁業系</p> <p>【事業系ごみ】 木材等</p> <p>【その他】 硬質プラスチック片、発泡スチロール片、シート、ガラスや陶器片 等</p>	<p>【生活系ごみ】 飲料用プラボトル、食品の包装・容器、キャップ、袋類、苗木ポット、おもちゃ、ライター 等</p> <p>【漁業系ごみ】 漁業系</p> <p>【その他】 硬質プラスチック片、シート 等</p>	<p>【生活系ごみ】 飲料用プラボトル、食品の包装・容器、生活雑貨、キャップ、袋類、苗木ポット 等</p> <p>【漁業系ごみ】 漁業系</p> <p>【事業系ごみ】 木材等</p> <p>【その他】 硬質プラスチック片、シート、スプレー缶、クッション 等</p>
生物影響ごみ (種類・数を調査)	<p>プラスチック破片(23)、ペットボトルのキャップ(13)、シート状のゴミ(ビニール袋・布・衣類など)(10)、ガラス破片(6)、食品の包装・容器(6)、空き缶(3)、使い捨てライター(2)、ロープ・ひも状のゴミ(2)、発泡スチロール(1)、ペットボトル(1)、ピン類(1)、ガラス・陶器(1)、プラスチック容器(1)、車両部品(1) 等</p>	<p>プラスチック破片(35)、ペットボトルのキャップ(18)、シート状のゴミ(ビニール袋・布・衣類など)(14)、ペットボトル(6)、プラスチック容器(6)、ロープ・ひも状のゴミ(4)、タバコの吸い殻・フィルター(3)、漁網(1) 等</p>	<p>プラスチック破片(80)、シート状のゴミ(ビニール袋・布・衣類など)(20)、ペットボトルのキャップ(7)、ロープ・ひも状のゴミ(6)、木製品(3)、タバコの吸い殻・フィルター(1)、ペットボトル(1)、スプレー缶(1) 等</p>

◆ 話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

① 調査方法について

- 調査時間は、夏は 2 時間くらいが適切だと思う。(松井)
- 調査人数は、今日の人数は 1ヶ所でやる人数としては多い。4、5 人が適切だと思う。(青木)
 - ▶ (一同了承)
- 灌木・流木の区別はつかないので、「山から発生した流木」、「川から発生した流木」、「川から発生した流木のうちヨシ」の 3 つに分類した方がいい。(青木)
- 藤前干潟の調査では、分別するのに、バケツを持っていった。(溝口)
 - ▶ 容器の方が良い。風が吹くと飛ばされてしまう。量は換算すればいい。(青木)

② 調査範囲について

- 調査範囲 10m を何処にするのかという問題がある。川のゴミは、流れの淀みのところに溜まって均一でない。1m 真四角にして代表的なところで割り切れればいいのかと思う。(溝口)
 - ▶ 川の場合、10m を一つ取るよりは、1m や 2m を複数取った方がいいと思った。(鈴木)
 - ▶ 今日のような砂浜の場合、波際にずっと続くので、全体の一部分を取って、あとはメーター数をかけて換算すればいい。(後藤)

③ 生物影響調査について

- 生物影響ごみ調査の目的を何にするかが重要である。人由来ごみ調査を行えば、最終的にゴミの発生源を把握できる。それを目的にするのか、量まで把握するかという問題がある。(土屋)
- 人由来ごみと生物由来ごみの調査を合体させてはどうか。例えば、生活系、漁業系、事業系で、ある程度の量の把握で良いのではないかと感じる。(青木)



今後のスケジュール (予定)

次回 海部会第 11 回 WG を 8 月 5 日 (月) に開催します

東幡豆町トンボロ干潟、西浦人工干潟にて、生物調査、見学を行い、海の将来像について話し合う予定です。

